

基礎調査報告【生活排水処理編】(概要)

1 生活排水処理の現状と将来予測

- 行政区域内人口：減少傾向
- 下水道処理人口：増加傾向
- 農業集落排水人口：増加傾向
- 合併処理浄化槽人口：微減傾向
- 単独処理浄化槽人口：減少傾向
- し尿収集人口：減少傾向

【排出量】

- し尿：減少傾向
- 浄化槽汚泥：平成32,33年度をピークに減少傾向に転じる
- 合計：減少傾向

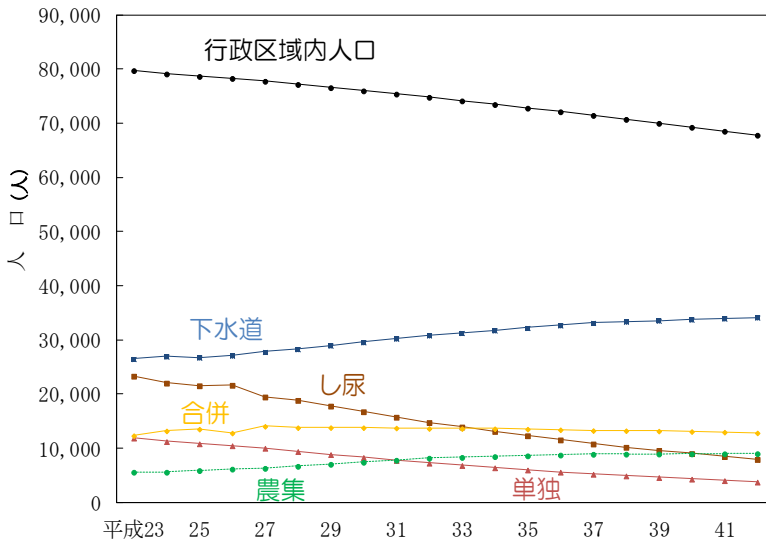


図1 生活排水処理形態別人口の推移

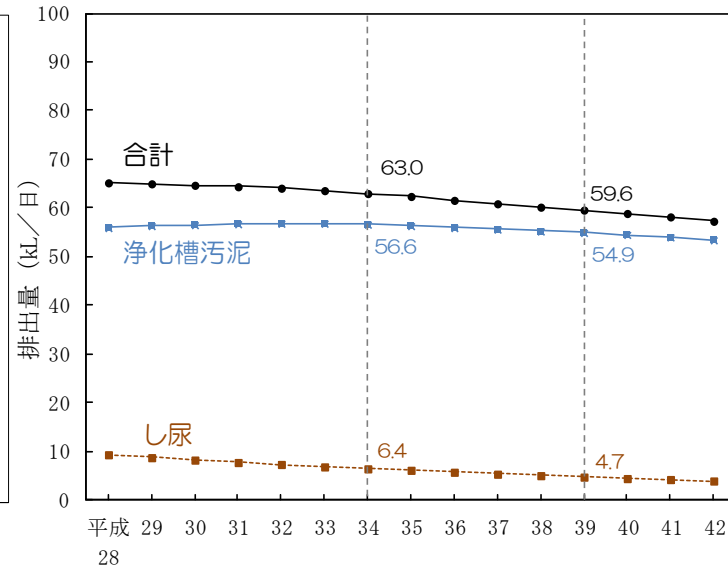


図2 し尿及び浄化槽汚泥の将来排出量

	現在 (平成27年度)	中間目標年度 (平成34年度)	目標年度 (平成39年度)
水洗化率(公共下水道) ^{※1}	79.0%	83.1%	85.9%
水洗化率(農業集落排水) ^{※1}	75.9%	89.9%	97.8%
生活排水処理人口普及率 (合併処理浄化槽) ^{※2}	18.1%	18.6%	18.9%
生活排水処理率 ^{※3}	62.0% (H26: 58.9%)	73.4%	79.6%

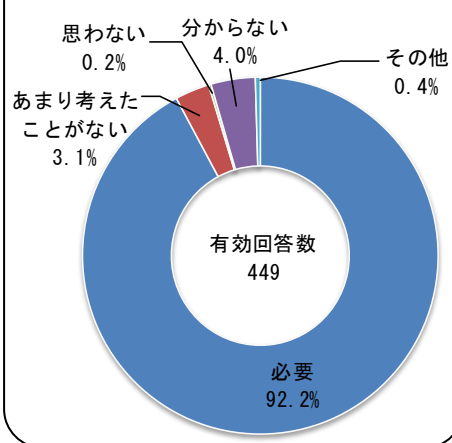
※1 水洗化率=処理人口/整備区域内人口×100
 ※2 生活排水処理人口普及率=合併処理浄化槽人口/行政区域内人口×100
 ※3 生活排水処理率=生活雑排水を処理している人口/行政区域内人口×100

【水洗化率・普及率】

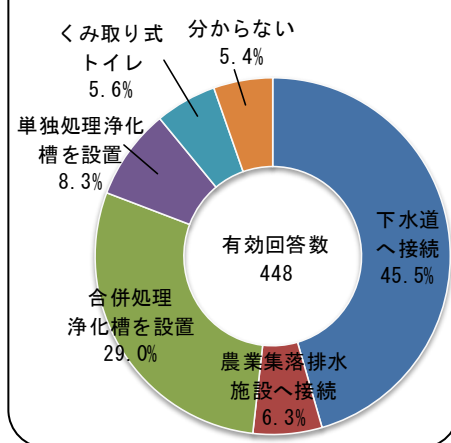
下水道、農業集落排水、合併処理浄化槽の利用人口増加により生活排水処理率は向上する

2 市民意識調査結果

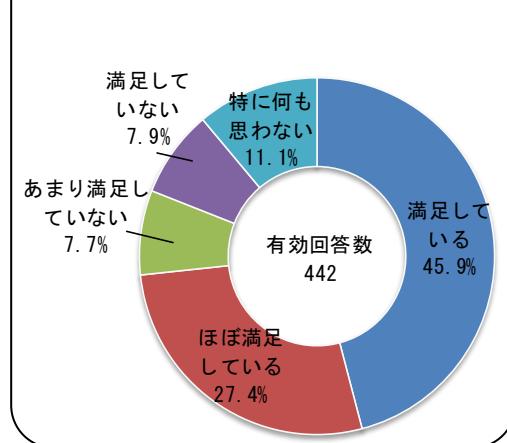
(1) 生活排水処理の必要性



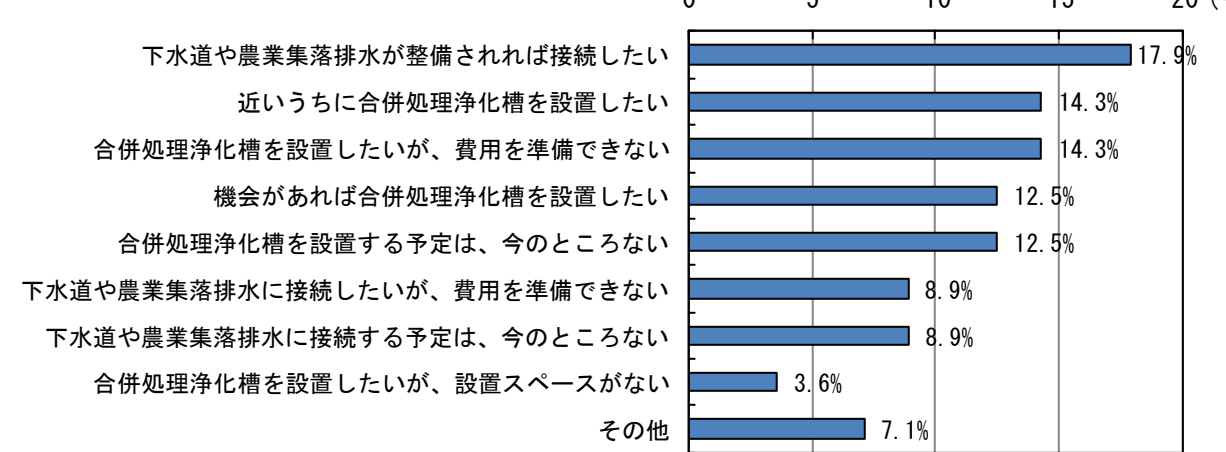
(2) 生活排水処理方法



(3) 生活処理方法への満足度

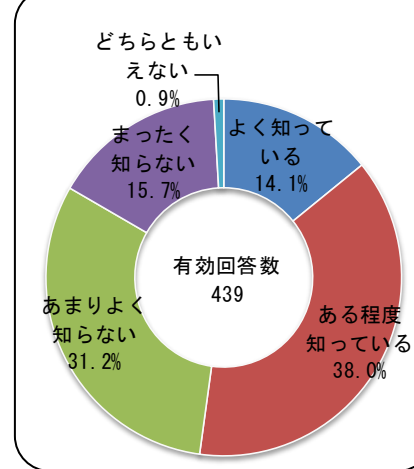


(4) 生活排水処理方法の改善希望 (現在の生活排水処理：し尿汲取り・単独処理浄化槽)



- ◆下水道、農業集落排水、合併処理浄化槽への改善を希望：71.5%
- ◆希望しているが費用を準備できない：23.2%
- ◆下水道、農業集落排水、合併処理浄化槽への改善予定なし：21.4%

(5) 施策の認知度



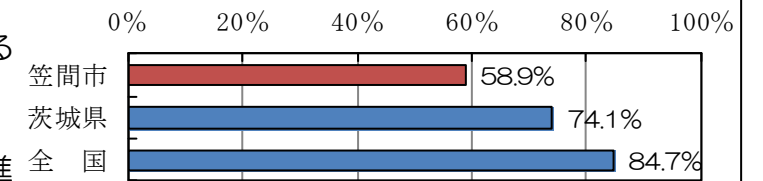
【市民意識調査結果】

- ◆多くの住民(92.2%)が生活排水処理の必要性を感じている
- ◆現在の生活排水処理方法に対する満足度は高い
- ◆現在、し尿汲取り及び単独処理浄化槽を利用している住民のうち、多くの住民(71.5%)が下水道、農業集落排水、合併処理浄化槽への転換を望んでいるが、そのうちの23.2%が「費用を準備できない」としている
- ◆生活排水処理率に影響する下水道、農業集落排水、合併処理浄化槽への改善予定なしが、21.4%ある

3 生活排水処理に係る課題

◆生活排水処理率の向上

全国、茨城県に比べ、本市の行政区域内人口に占める生活雑排水を処理している人口の比率が低い



下水道、農業集落排水、合併処理浄化槽の整備を促進

※茨城県値及び全国値は直近(H26年度)の一般廃棄物処理実態調査結果(環境省)公表値

◆生活排水処理に係る広報・啓発

市民意識調査結果では、住民の生活排水処理に対する意識が高く、下水道、農業集落排水、合併処理浄化槽への転換希望があるので、市の整備計画や助成制度について市民に周知できるよう、より一層の広報・啓発活動の充実が重要となる

◆し尿・浄化槽汚泥処理の効率化検討

市内で発生するし尿及び浄化槽汚泥処理は、筑北環境衛生組合(笠間地区)及び茨城地方広域環境事務組合(友部、岩間地区)で行っているが、集約化の可能性等、効率的な処理について検討が必要

